

教科・科目	単位数	教科書	使用教材
芸術科・音楽 I	2	高校生の音楽 1 (教育芸術社)	
科目の概要と目標	音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成することができる。		
単元	学習内容	到達度目標	
豊かな声で歌おう	発声の基礎を学び、様々な曲種の歌を歌う。	よい響きの声で歌い、ハーモニーを楽しむことができる。	
外国の歌曲を歌おう	イタリア語とドイツ語の特徴を生かした歌唱。	イタリア語やドイツ語の歌曲に関心をもち、それぞれの言語の特徴を理解して歌うことができる。	
日本の歌曲を歌おう	斉唱や合唱を通して、日本の歌曲の語感と表紙の関係を考慮して歌う。	日本語の歌曲の特徴や、詩の内容を理解して、詩にふさわしい歌唱表現を探ることができる。	
創作	日本の音階で旋律をつくる。	日本の音階の種類の違いを感じとり、グループで創作に取り組むことができる。	
ギターを弾こう	チューニング、基本練習、メロディー練習	ギターの演奏技能を身につけ、意欲的に取り組むことができる。	
オーケストラの音色を知ろう	オーケストラの編成について知る。 ・ボレロ	ボレロを聴いて、交互に出現する旋律や、一貫して用いられるリズムを感じとることができる。	

教科・科目	単位数	教科書	使用教材
芸術・美術 I	2	高校美術 1 (日本文教出版)	
科目の概要と目標	美術に関する専門的な学習を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を豊かにし、美術や美術文化と創造的に関わる資質・能力を育成する。		
単元	学習内容	到達度目標	
オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然と美術、生活や社会の中の美術</li> <li>・作品及び作家に関する研究</li> <li>・鑑賞</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美術作品などのよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫などを感じ取り、また自然と美術の関わり、生活や社会を心豊かにする美術の働きについて考え、理解を深めることができる。</li> </ul>	
デザイン (キャラクターデザイン)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自分」をキャラクター化する。</li> <li>・自分の持ち味や性格、外見的特徴を調べて、形や色彩を考える。 (イラスト)</li> <li>・キャラクターのネーミングを考え、文字をデザインする。 (ロゴタイプ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単なる「かわいい」「かっこいい」キャラクターではなく、自分の持つ特徴や性格などを客観的に捉えイメージすることができる。</li> <li>・想定した特徴や性格などを、具体的な形や色彩につなげる思考を持つことができる。</li> <li>・文字の可読性と規則性を理解し、キャラクターの特徴や性格を効果的に伝えることができる。</li> </ul>	
彫刻 (キャラクターを立体にする)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・材料や用具の特性を生かして全体の形や構成、バランスを確認しながら粘土をついたり、形を削り出す工夫をする。</li> <li>・鑑賞</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表したい感情のイメージを形体と構成で表現するために、材料や用具の特性を生かしながら、量感や質感の表現を工夫することができる。</li> <li>・他者の表現意図や工夫を知ることにより、創造的な思考力を深化させることができる。</li> </ul>	
絵画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・素描 (身近な物を描く)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象を深く見つめ、感じ取ったことから主題を生成することができる。</li> <li>・形体や明暗を工夫して、表現の構想を練ることができる。</li> <li>・鉛筆の特性を理解し、効果を生かして表現することができる。</li> <li>・描くことの楽しさを感じ取ることができる。</li> </ul>	

教科・科目	単位数	教科書	使用教材
芸術・書道 I	2	書 I (光村図書)	
科目の概要と目標	書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を育成する。		
単 元	学習内容	到達度目標	
書写から書道へ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文房四宝について</li> <li>・書の分野・書体について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・用具・用材の特徴と表現効果との関わりについて理解することができる。</li> <li>・漢字の成立と変遷について理解することができる。</li> </ul>	
漢字の書 (楷書)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楷書の用筆法</li> <li>・楷書古典の鑑賞と臨書 (九成宮醴泉銘・孔子廟堂碑・顔氏家廟碑・牛橛造像記)</li> <li>・創作と鑑賞</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鑑賞や臨書によって、書体や書風と用筆・運筆との関わりを理解することができる。また、楷書の伝統と文化について理解することができる。</li> <li>・それぞれの古典の用筆、運筆法を理解して臨書することができる。また、古典の価値やその根拠について考えることができる。</li> <li>・古典に基づく用筆・運筆を実践し、線質・字形や構成を生かした表現をしたり鑑賞したりすることができる。</li> </ul>	
漢字の書 (行書)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行書の用筆法</li> <li>・行書古典の鑑賞と臨書 (蘭亭序、風信帖)</li> <li>・創作と鑑賞</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鑑賞や臨書によって、書体や書風と用筆・運筆との関わりを理解することができる。また、行書の伝統と文化について理解することができる。</li> <li>・それぞれの古典の用筆、運筆法を理解して臨書することができる。また、古典の価値やその根拠について考えることができる。</li> <li>・古典に基づく用筆・運筆を実践し、線質・字形や構成を生かした表現をしたり鑑賞したりすることができる。</li> </ul>	
漢字の書 (篆刻)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鑑賞</li> <li>・氏名印の制作</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活や社会における篆刻の効用、書作品との表現効果や風趣との関わりについて理解を深め、味わうことができる。</li> <li>・篆刻の基本的な技法を身に付けることができる。</li> </ul>	
仮名の書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仮名の成立</li> <li>・平仮名の単体の練習</li> <li>・連綿の練習</li> <li>・平安古筆の鑑賞と臨書</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仮名の書の成立過程と字源について理解し、関心を持つことができる。</li> <li>・仮名の線や運筆について知り、基本的な用筆法を習得する。平仮名の造形を理解し表現することができる。</li> <li>・連綿に慣れリズムよく書くことができる。</li> <li>・古筆の鑑賞により、日本の書の伝統と文化について理解を深めることができる。</li> <li>・変体仮名の妙味、連綿の変化や墨継ぎの美などを感じ取りながら臨書することができる。</li> </ul>	
漢字仮名交じりの書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・創作 (漢字と仮名の調和、用具・用材の特徴と表現効果、用筆・運筆、紙面構成)</li> <li>・鑑賞</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的や用途に即した効果的な表現をすることができる。これまでの知識や技能を生かし、漢字と仮名を調和させた制作ができる。</li> <li>・名筆や現代の書の表現を比較・考察し、作品の価値や根拠について自分なりの価値観をもつことができる。</li> </ul>	